

部署紹介

透析室

透析室の概要

診療科：腎臓内科・移植外科
病床数：37床（個室1床含む）
透析予定：月～土 午前・午後2クール



令和元年度 透析室統計

透析件数：19,937件
患者平均年齢：70.5歳
維持透析患者数：116名



透析室の特徴

当院の透析室は透析導入から維持透析、重症患者の緊急透析まで幅広い患者を対象としています。また、総合病院の特色を生かし、他院からの検査、手術目的の臨時透析患者や、観光地であるため旅行透析患者の受け入れも行っています。

治療の対象となる疾患は、急性腎不全、慢性腎不全、敗血症性ショック、潰瘍性大腸炎、肝不全などで、治療の内容としては、HD（血液透析）、HDF（血液透析濾過）、ECUM（限外濾過）、PE・DFPP（血漿交換療法）、腹水濾過濃縮再静注法、GCAP（顆粒球除去）、LCAP（白血球除去）、を行っています。

看護の特徴としては、高齢化が進み認知症患者が増加していることや、急性期の患者も多いことから、安全安楽に努めながらきめ細かな観察を行うことを心掛けています。

スタッフからのメッセージ



新人看護師はプリセプターがサポートし、グループ統一のラダープログラムに沿ってスタッフ全員で共に育て学び合うことを心掛けています。さらに透析室独自の新人教育プログラムを作成しています。また、透析機器は特殊なため、臨床工学技士が技術指導、技術チェックを行ってくれます。透析患者様の精神的サポートも含め、日常生活の指導や相談も大切な看護といえます。透析は特殊と思われがちですが、看護の本質は変わりません。皆さんと共に透析患者様の看護を語り合える日が来ることを楽しみにしています。

